

はばたき

大分大学教育学部
附属小学校便り
平成 28 年 12 月 21 日

歌声発表会を終えて

文化芸術部担当 鳴川 典子

先日の12月2日(金)に、グランシアにて歌声発表会が行われました。本校における歌声発表会は、平成4年度に本校体育館で行われた「全校音楽集会」を皮切りに、開催場所や形態を変化させながら現在に受け継がれてきました。昨年度からは、各学年2曲のうち1曲が外国語の歌となっており、本校が力を入れている外国語活動のつながりを感じさせる発表でした。今回は、歌声発表会に向けての取組についてお知らせいたします。

運動会が終わった頃、校舎内のいたるところで朝や帰りの時間に発声練習や歌声を聴くことが多くなりました。この時期になると、どの学年も歌声発表会に向けての全体練習が始まり、それぞれの学年の目指す歌声に向かって練習を始めているのです。当然、私達教師も歌声の指導にあたり、子どもたちと共に歌声を磨き上げるために、試行錯誤を繰り返していました。歌唱指導というと、よく「発声」「音程・リズム」などの技能を指導するものと考えがちですが、本校の歌声発表会が目指すものは、児童会のテーマ「～響け～キラリ輝くみんなの歌声」にあるように、歌声を通して会場に来られている方々に「何を伝えたいのか」ということを明確にした表現活動でした。もちろん、自分の想いを伝えるためには、手立て(技能)は必要不可欠です。歌声の技能を高めることだけが目的ではなく、自己の想いを最大に表現するために必要な歌唱技能を身につけ、練習を重ね、自信をつけていく。この繰り返しのよって、子どもたちの「伝えたいこと」が歌声となり、一人ひとりがキラリと輝く姿になっていったのではないかと思います。

当日の会場では、今か今かと出番を待つ子どもたちの熱気と、子どもたちがステージに立って歌うその一瞬の姿を楽しみにしておられた保護者の皆様の期待で包まれていました。今年初めて参加した1年生から、6年間もこの歌声発表会に取り組んできた6年生の姿にその成長過程をみることもでき、各学年の「伝えたいこと」が会場の皆様にも感じて頂けたのではないのでしょうか。今回の歌声発表会にあたり、大分大学の栗栖先生より子どもたちへ次のような講評をいただきましたのでご紹介いたします。(①1曲目 ②2曲目)

- 1年：①みなさんの歌を聴いて、本当にポカポカ気分になりました。
②とても伸び伸びと歌えていました。魔法の言葉、素敵でしたよ！
今年初めての歌声発表会とは思えない素晴らしい演奏でした。
- 2年：①とても幸せな気分になりました。英語の発音すごいですね！たくさん練習したのですね。
②とてもパワフルな演奏でした。3番のP、印象的でした。
- 3年：①素敵な演奏でした。英語頑張りましたね。
②3年生の皆さんの気持ちが1つになり、元気な歌声で会場が満たされました。こちらまで元氣と勇気をいただいたように思います。
- 4年：①英語の発音も素晴らしかったですが、歌声も大変素晴らしかったです。美しい声、美しいハーモニーが聴けました。最後のアカペラもよかったですね。
②やわらかな声で、詩を上手に語っていたと思います。すごい団結力です！2部のハーモニーがとても美しかったです。
- 5年：①立派な演奏でした。とても表現力があり、説得力のある演奏です。2部のハーモニーがきまっていました。アルト、支えていましたね。
②本当にハッピーになりました。透明感のある優しい歌声、流れるような英語、感心しました。
- 6年：①素晴らしい演奏でした。皆さんの歌声は「世界を平和にする！」そんな力があると思います。
②本当に涙が出ました！素敵な音楽に拍手です！中学生になっても歌い続けてください！

歌声発表会が終わり、振り返りを行うと「会場にいる人達を元気にすることができた！」「楽しい気持ちを歌や表情に表すことができた」等の言葉を聞くことができ、子どもたちは個々に何らかの力を得たことを実感しているようです。もうすぐ冬休みになりますが、大切なことはこのつけた力を今後の生活に活かすことです。3学期からの自分の身近な課題と関連付けながら、この歌声発表会で得た力を活かしていけるよう、教職員一同で支援してまいります。3学期も変わらぬご協力の程、よろしくお願いいたします。